国土交通省
国土地理院

国土地理院広報

2026年11月発行　　第701号



第68次南極地域観測隊員　つくば市長を表敬訪問　阪本隊員(右から2番目)と鎌苅隊員(右から3番目)

CONTENTS

1. 第68次南極地域観測隊員出発 …… 2
2. 令和9年測量士･測量士補試験の御案内 …… 3
3. 地図展2026つくばを開催しました …… 4
4. 自然災害伝承碑が2,500基を突破 …… 6
5. 中国(三亜)で開催された地理空間情報管理に関する国際会議等に参加 …… 7
6. 海外研究者を招いてグローバル測地ワークショップを開催 …… 8
7. 「関西G空間フォーラム2026」を開催 …… 9
8. 第77回 日本学校農業クラブ全国大会(平板測量競技会)で国土地理院長賞を授与 …… 11
9. 令和8年秋の叙勲 …… 12
10. 「自然災害伝承碑」ウェブ地図「地理院地図」での公開数 …… 13
11. 10月の報道発表･12月の主な行事予定 …… 13

第68次南極地域観測隊員出発

第68次南極地域観測隊は、11月25日に羽田空港からオーストラリア経由で南極の昭和基地に向けて出発しました。なお、出発に先立つ10月5日には、つくば市にゆかりのある隊員とともに、つくば市長を表敬訪問しました。

■ 国土地理院からは阪本隊員と鎌苅隊員が参加

第68次南極地域観測隊は、越冬隊29名、夏隊44名、夏隊同行者13名で編成され、夏隊員として、基本図情報部 阪本（さかもと） 亮太（りょうた）専門職と測地観測センター 鎌苅（かまかり） 裕紀（ゆうき）係長が参加しています。

阪本隊員と鎌苅隊員は、南極地域観測事業における測地定常観測として、測地測量及び地形測量を実施します。測地測量では、基準点設置、相対重力測定を実施するほか、昭和基地において絶対重力測定やGNSS連続観測局の保守等を実施します。また、地形測量では、無人航空機（UAV）による空中写真撮影を実施するほか、写真の位置精度を高めるためのGNSS測量と対空標識設置を実施します。

また、萌芽研究観測として行う小型衛星レーザ測距（SLR）観測の補助を昭和基地で実施します。萌芽研究観測は、将来的な研究観測への発展可能性を検証するため、南極地域の特色を活かした独創的・先駆的な観測・調査や技術開発を期限を設けて実施するものです。南極地域におけるSLR観測は初の試みであり、これまで観測空白域であった南半球の高緯度地域での観測データ取得を目指すものです。観測が実現すれば、人工衛星の軌道決定精度の向上に寄与するなど、将来的な測地分野への貢献が期待されます。一方で、南極地域でのSLR観測の導入・運用は困難であり、挑戦的な取組でもあります。

国土地理院は、第1次から継続して南極地域観測隊に参加しており、観測隊の活動を支える地理空間情報を整備するほか、国際協力を通じてより正確な地球の形状を捉える事業にも貢献しています。

■ つくば市長を表敬訪問

出発を2か月後に控えた10月5日、阪本隊員と鎌苅隊員は市内にゆかりのある隊員や関係者とともに、つくば市の五十嵐（いがらし） 立青（たつお）市長を表敬訪問し、南極地域での活動内容と抱負を述べ、市長からは激励の言葉をいただきました。

阪本隊員と鎌苅隊員は、令和9年2月中旬に昭和基地を離れ、令和9年3月23日（火）に帰国する予定です。



第 68 次南極地域観測隊として出発する阪本隊員（左から 5 番目）と鎌苅隊員（右から 5 番目）

（基本図情報部・測地観測センター）

令和9年測量士・測量士補試験の御案内

令和9年測量士・測量士補試験を令和9年5月16日(日)に実施します。
願書の受付は書面申請・電子申請(オンライン)ともに令和8年12月14日(月)から行います。

1 試験日時及び試験地

(1)試験日時

①測量士試験　令和9年５月16日(日)
午前10時から午後４時まで

②測量士補試験　令和9年５月16日(日)
午後１時30分から午後４時30分まで

(2)試験地

北海道、宮城県、秋田県、東京都、新潟県、富山県、愛知県、大阪府、島根県、広島県、香川県、福岡県、鹿児島県、沖縄県

※会場確保の都合上、やむを得ず近隣府県に試験会場を変更又は追加する場合があります。

2 受験手続

(1)受験案内(願書)の配布

受験案内(願書)は、令和8年12月14日(月)から、次の場所において配布しております。

◎国土地理院本院及び地方測量部・支所
◎各都道府県の土木関係部局の主務課
◎公益社団法人日本測量協会本部・各支部

郵送により請求する場合は、封筒の表に「願書請求〇部」と朱書きし、宛先明記の返信用封筒(角形２号以上)に必ず所要の切手を貼ったものを同封してください。

ただし、都道府県の土木関係部局の主務課、公益社団法人日本測量協会本部・各支部では郵送の取扱いはしません。

(2)受験願書受付場所

国土地理院　企画部測量資格制度課
(〒305-0811 茨城県つくば市北郷１番)

(3)受験願書受付期間等

令和８年12月14日(月)から令和9年1月14日(木)まで

郵送の場合は簡易書留郵便で1月14日(木)までの消印があるものに限り受け付けます。

電子申請(オンライン)の場合は、オンライン上での申請後、1月14日(木)までに試験手数料が納付されたものに限り受け付けます。

3 合格発表及び通知

測量士:令和9年7月8日(木)
測量士補:令和9年6月24日(木)

国土地理院ウェブサイトに合格者の受験番号を掲載します。

また、全受験者宛てに試験の結果(合否)を郵送で通知します。

4 試験問題等の公表

国土地理院ウェブサイトに試験日の翌日以降、試験問題及び解答を掲載します。

5 その他

電子申請(オンライン)による申込方法や試験に関する手続等は、国土地理院ウェブサイトまたは二次元コードで案内しておりますので、御確認ください。

国土地理院ウェブサイト
https://www.gsi.go.jp/LAW/R9shiken_00001.html

6 試験に関する問合せ先等

国土地理院企画部測量資格制度課試験登録係
問合せフォーム
https://www.gsi.go.jp/contactTop.html



(企画部)

地図展 2026 つくばを開催しました

「第59回地図展2026つくば一常陸の先人から研究学園都市・つくばへー」を地図と測量の科学館（茨城県つくば市）で開催しました。

10月24日から11月1日までの9日間、国土地理院の地図と測量の科学館で「第59回地図展2026つくば一常陸の先人から研究学園都市・つくばへー」を開催しました。「地図展」は、測量・地図の関連団体が組織する地図展推進協議会と国土地理院が主催するイベントです。

広く国民の皆様に地図を通して国土や地域について理解を深めていただくとともに、より一層地図に親しみ、地図を利用していただくことを目的に、毎年開催しています。59回目となる今回は茨城県で初めての開催となり、4,522名もの方々にご来場いただきました。ここでは、開催中の様子をご紹介します。

伊能忠敬のほかに、間宮林蔵、長久保赤水、鷹見泉石、小野友五郎といった、茨城ゆかりの先人たちが描いた地図を一度に展示した「古地図展～日本の姿を明らかにした先人たち～」の会場では、多くの方がその美しさや当時の技術の高さに感心された様子で、じっくりとご覧になっていました。



古地図展

「あの日の筑波、今のつくば、そしてこれからのつくば～地図と空中写真でたどる、街の記憶～」をテーマにした展示会場では、筑波の大地・遺産から育まれた歴史・文化などに関する展示のほか、1985年につくばで開催された科学万博に焦点を当て、会場建設前から開幕直前、そして閉幕後の街の変化を空中写真や地図でわかりやすく紹介。つくばの街の発展していく様子を見て、その変貌ぶりに驚かれる方や、当時を懐かしむ方の姿が見られました。

つくば市の空中写真床展示では、写真の上を歩き、あるいはしゃがみ込みながら自宅や学校を探すなど、空中散歩を楽しんでいただけたのではないでしょうか。



「あの日の筑波、今のつくば、そしてこれからのつくば」の展示

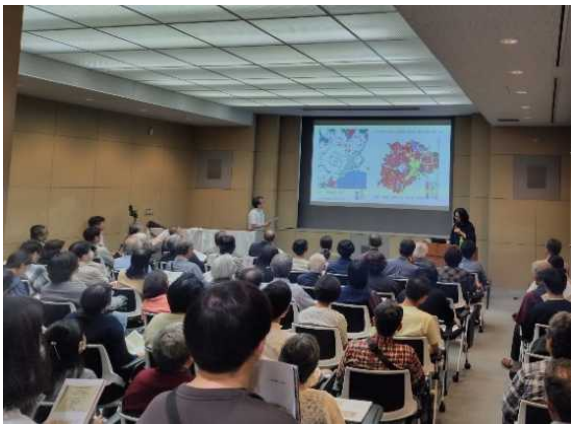


つくば市空中写真床展示

10月25日には「地図大使」石原良純氏と法政大学文学部教授の米家志乃布氏による講演会を行い、期間中最多となる1,000名を超える来場者で賑わいました。



「地図大使」石原良純氏 特別講演



法政大学米家志乃布教授　基調講演

このほか、キッズイベント「小さな地球儀を作ってみよう！」や、歩測チャレンジ、測量用航空機「くにかぜ」の機内公開など、地図と測量に親しむことができる様々なイベントを実施しました。



「くにかぜ」機内公開

地図と測量の科学館の常設展示室や日本列島空中散歩マップ、地球ひろばなど通常どおり公開したエリアには、国土地理院の職員を説明スタッフとして配置し、展示物に関する解説や、地図と測量、国土地理院の業務に関する説明を行いました。多くの方と直接ふれあう貴重な機会となりました。

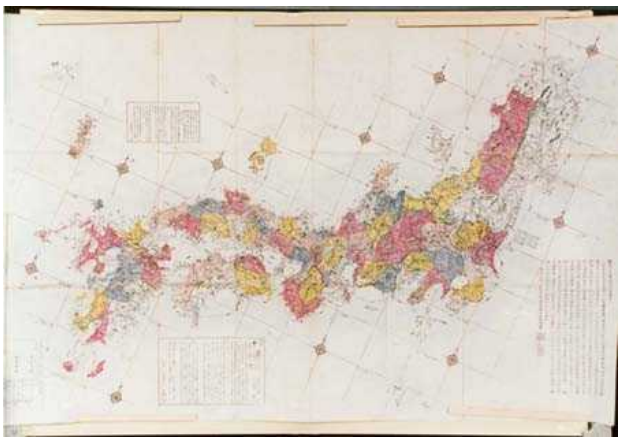


日本列島空中散歩マップ

来場された皆様が地図と測量の魅力を感じていただけたなら幸いです。

たくさんのご来場ありがとうございました。

なお、前述の「古地図展～日本の姿を明らかにした先人たち～」で展示した古地図は、好評をいただいたことから、地図展推進協議会の協力のもと、12月13日（日）まで期間を延長して展示しています。あわせて、地図と測量の科学館開館30周年事業として、国土地理院が所蔵する古地図の原本を11月29日（日）まで展示しています。



改正日本輿地路程全図（国土地理院所蔵）

地図と測量の科学館は、私たちの生活に欠かせない地図や測量の役割を、誰もが楽しみながら学び、体験できる施設として今年で開館30周年を迎えました。

12月25日（金）には、「冬休みイベント」として「くにかぜ」機内公開と、地図や地図記号のカードを使った「地図かるた」イベントを予定しています。

皆様のご来館を心よりお待ちしています。

国土地理院「地図と測量の科学館」
https://www.gsi.go.jp/MUSEUM/
入場無料

地図と測量の科学館

（総務部、関東地方測量部）

自然災害伝承碑が 2,500 基を突破

国土地理院では、過去の自然災害の被害状況や教訓を後世に伝える「自然災害伝承碑」の情報をウェブ地図「地理院地図」等で公開しています。令和8年 11 月には、自然災害伝承碑の掲載数が 2,500 基を突破しました。災害の自分事化を促進し、被害軽減に結びつけるため、活用事例の掲載を拡充するとともに、全国の自然災害伝承碑を手軽に探せる検索ツールなどの新たなコンテンツを公開しています。今後も、自然災害伝承碑の掲載と活用を進めてまいります。

■ 掲載数が 2,500 基を突破

国土地理院では、過去の自然災害の被害状況や教訓を後世に伝える石碑やモニュメントである「自然災害伝承碑」の情報を地理院地図等で公開しています。

令和元年6月の公開開始以来、市区町村等の協力を得ながら掲載を進めています。令和3年7月には1,000基、令和4年9月には1,500基、令和5年9月には2,000基を超えるなど、掲載数は着実に増加し、このたび**2,500基**に達しました（図1）。

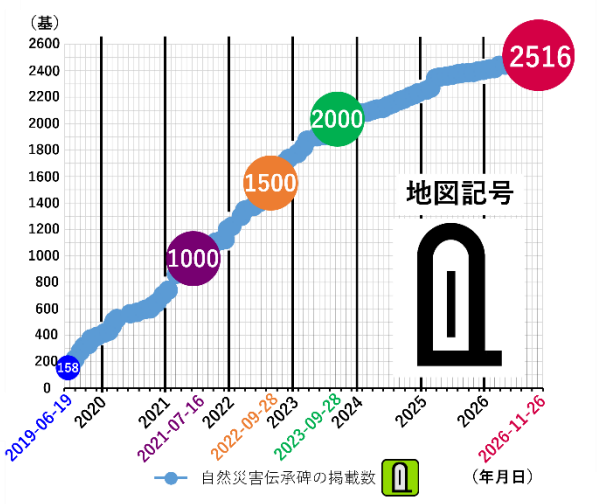


図1 自然災害伝承碑の地図記号と掲載数の推移

■ 防災教育・地域学習での活用が拡大

自然災害伝承碑は、地域の災害リスクを知り、災害を自分事化するための貴重な情報源として、**防災教育や地域学習など幅広い場面で活用**されています。国土地理院のウェブサイトにおいて、地方公共団体、教育、地域学習等における自然災害伝承碑の活用事例を多数掲載しています。活用のヒントにぜひご覧ください。

https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi_utilization.html

■ 自然災害伝承碑を“探す”ための新規コンテンツを追加

自然災害伝承碑の更なる掲載と利活用促進のため、**令和8年度に様々なコンテンツを公開**しました。

https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi_info.html

例えば「**自然災害伝承碑 検索ツール**」（図2）では、碑名、災害種別、伝承内容等のキーワードで、全国の自然災害伝承碑の情報を横断的に検索・閲覧できます。同種の災害の分布や身近な碑が登録されているかの確認など、ぜひ活用ください。



図2 自然災害伝承碑 検索ツール

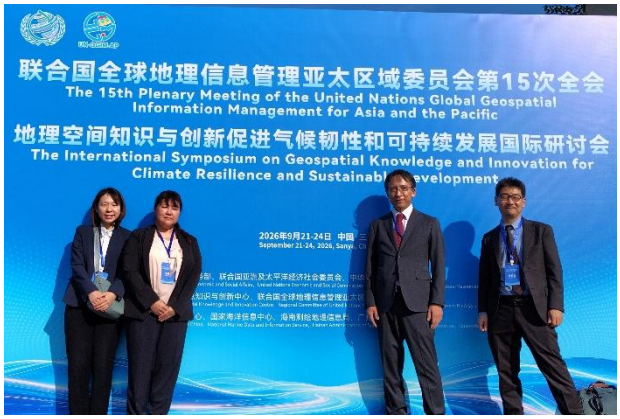
（応用地理部）

中国（三亜）で開催された地理空間情報管理に関する国際会議等に参加

9 月 21 日から 24 日に中国・三亜市で開催された国連地球規模の地理空間情報管理に関するアジア太平洋地域委員会（UN-GGIM-AP）第 15 回総会及びサイドイベントに参加しました。

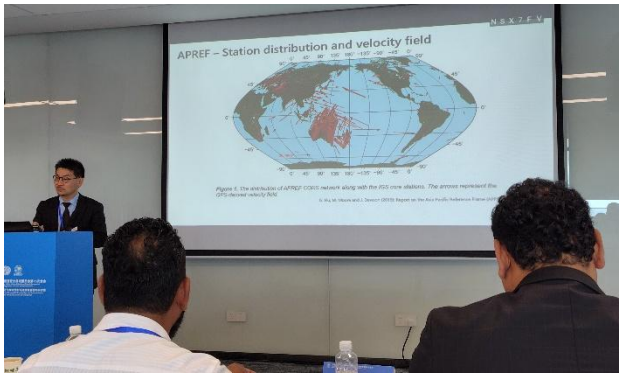
今回、国土地理院が参加したのは、「国連地球規模の地理空間情報管理に関するアジア太平洋地域委員会（UN-GGIM-AP）総会」です。「国連地球規模の地理空間情報管理に関する国連専門家委員会（UN-GGIM）」の5つの地域委員会のうちの1つで、日本は2012年の設立から会長等の役員を務めており、現在は理事として参画しています。

今回の会合には、国土地理院から飯田洋（いいだよう）基本図情報部長、宮原伐折羅（みやはらばさら）測地観測センター長、宮下妙香（みやしたたえか）企画部国際課長、野口真弓（のぐちまゆみ）基本図情報部国土基本情報課長の4名が出席しました。



国土地理院からの出席メンバー

本会合で行われた会議（本会議や理事会、各作業部会）では、宮原センター長が測地基準座標系作業部会（WG1）の部会長として活動報告を行いました。また、飯田部長が地理空間AI作業部会（WG5）において、国土地理院での事例についてプレゼンテーションを行いました。



宮原センター長による活動報告



飯田部長によるプレゼンテーション

さらに、宮下課長が、2027年のUN-GGIM-AP理事会を日本へ開催招致するためのプレゼンテーションを行いました。



宮下課長によるプレゼンテーション

サイドイベントとして開催された「気候変動への強靭性と持続可能な開発のための地理空間知識・イノベーションに関する国際シンポジウム」にも参加し、宮原センター長が標高体系の近代化等に関する発表を行うと共に、アジア太平洋地域における地理空間情報の活用に関する知見を共有しました。

本会合の情報はUN-GGIM-APのWebページで公開されており、関連ドキュメント等を参照することが可能です。

https://un-ggim-ap.org/meeting/fifteenth-plenary-meeting-un-ggim-ap/

国土地理院はUN-GGIM-APの理事メンバーとして、引き続きアジア太平洋地域における地理空間情報管理の発展に貢献していきます。

（企画部・基本図情報部・測地観測センター）

海外研究者を招いてグローバル測地ワークショップを開催

国土地理院は、GGOS Japan及び日本測地学会の共催により、9月16日につくば市でグローバル測地ワークショップ(Global Geodesy: A Common Language for the Earth)を開催しました。本ワークショップには、ドイツ及びポーランドから招聘した測地研究者2名を含め、測地関係機関から計75名が参加し、日本の測地学の未来について議論しました。

■開催の目的と概要

衛星測位は、交通、都市計画、災害対応、安全保障など幅広い分野を支えており、円滑な社会経済活動の継続に不可欠な基盤インフラとなっています。測位衛星は地球を周回するため、衛星測位の実現には地球の正確な形状や動きの情報が不可欠であり、これらの地球に関する情報は、宇宙から地球を観測するグローバル測地の技術によって提供されています。グローバル測地に対する理解を促進し、国内外の測地関係者の連携を強化することを目的として、世界の第一線で活躍する測地学者を招いてグローバル測地ワークショップが開催されました。ワークショップには、ドイツ・ボン大学のスザンヌ・グレイザー教授及びポーランド・ヴロツワフ環境生命科学大学のクシシュトフ・ソシニツァ教授の2名が招待され、国内関係者との議論が行われました。



ワークショップ会場の様子



スザンヌ・グレイザー教授(左)及び
クシシュトフ・ソシニツァ教授(右)による招待講演

■講演およびパネルディスカッション

2名の招待講演者からは、グローバル測地の価値と課題、活用について俯瞰的な講演が行われ、地球環境の監視や宇宙・月探査を可能とするなど、社会と科学を支えるグローバル測地の重要性が初学者にもわかりやすい形で参加者に発信されました。続いて行われたパネルディスカッションでは、招待講演者に加えて国土地理院、JAXA、国立極地研究所、日本測地学会の代表が登壇し、日本と国際社会の連携強化について議論が交わされました。午後には測地関係者9名からグローバル測地に関する国内外の最新の状況が共有され、更なる連携を模索する場となりました。

また、ワークショップの前後の期間には招待講演者が国土地理院及び国内関係機関を訪問し、石岡測地観測局※1やJAXAつくばSLR局※2を視察したほか、測地関係機関担当者との意見交換を実施しました。



国土地理院、JAXA、国立極地研究所、日本測地学会
の代表によるパネルディスカッション

今回のワークショップ開催により、世界から見た日本の測地学の価値、課題が関係者間で共有され、幅広い関係者間での対話を強化するとともに、測地コミュニティを活性化する機会となりました。

※1 国土地理院石岡測地観測局:
https://www.gsi.go.jp/uchusokuchi/vlbi-igos.html
※2 JAXAつくばSLR局:
https://track.sfo.jaxa.jp/project/slr.html

(測地部・測地観測センター・地理地殻活動研究センター)

「関西G空間フォーラム2026」を開催

地理空間情報活用推進に関する近畿地区産学官連携協議会（会長：大阪工業大学吉川（よしかわ） 眞（しん）名誉教授、事務局：近畿地方測量部）の活動の一環として、10月9日に大阪工業大学梅田キャンパスにおいて「関西G空間フォーラム2026」を開催しました。

関西G空間フォーラムは、地理空間情報を高度に活用する社会（G空間社会）の実現に寄与するため、産学官が一堂に会し地理空間情報の活用に関する情報共有や意見交換を行い、将来を展望することを目的に、毎年大阪市で開催しているイベントです。第16回となる今回は「地理空間情報とデジタル社会の融合」をテーマとして387名の来場がありました。フォーラムでは、講演・パネルディスカッション等のシンポジウムと、機器・システム等の展示会を開催しました。

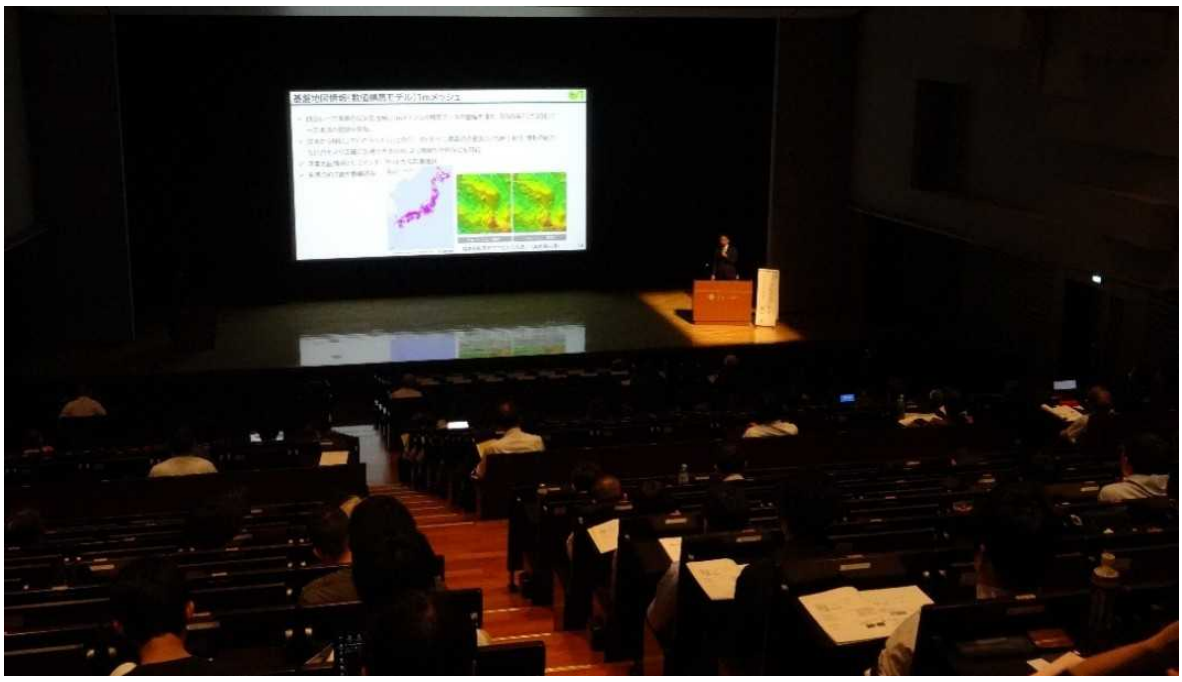
【合同シンポジウム】

合同シンポジウムは3部構成により、以下の内容で行われました。

第一部の測量技術講演会では、国土地理院から飯田（いいだ） 洋（よう）基本図情報部長が「地図は“高さ”を手に入れた －3次元電子国土基本図の整備・提供－」と題して、地図等データ提供の最新状況と「地理院地図」の中・小縮尺タイルのリニューアル、そして3次元電子国土基本図の整備・提供状況について紹介しました。基調講演では、大阪大学大学院工学研究科教授の福田（ふくだ） 知弘（ともひろ）氏より「都市デジタルツインを支えるAI・XR技術 －地理空間情報との融合による可視化・体験・意思決定支援－」と題して、VR、AR・MR、3D計測、点群、BIM、AI、3D Gaussian Splattingなどの技術が、都市Digital Twinという大きな流れの中でどのようにつながり、現実の都市をどこまで情報として捉え理解し、そして再び現実空間の中で活用できるのかについてご講演いただきました。

第二部の関西地域GIS自治体意見交流会では、朝来市都市整備部、大阪府都市整備部、一般社団法人OSGeo日本支部、和歌山大学システム工学部から、主に地方公共団体における最新の取組についてご報告いただきました。

第三部の合同パネルディスカッションでは、エアロトヨタ（株）の浅野（あさの） 和仁（かずひと）氏をコーディネータとし、飯田部長と第二部発表者により、会場からの質問



合同シンポジウム会場の様子（第一部）

に回答しながら活発な意見交換が行われました。

【地理空間情報関連の機器・システム等の展示会】

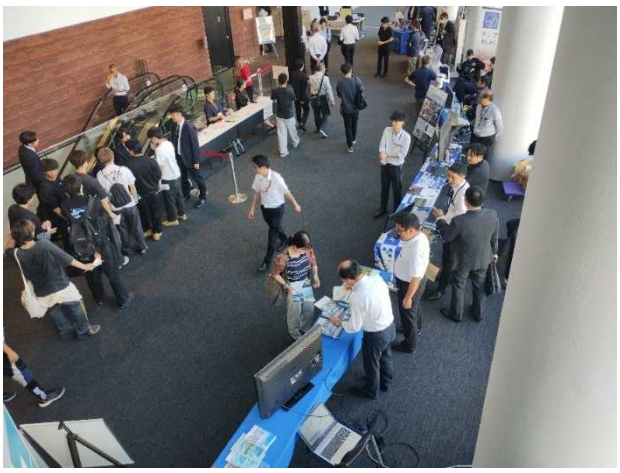
16の団体・企業による最新の測量機器や解析システム等の展示が行われました。近畿地方測量部からは、3次元電子国土基本図の整備・提供、高精度標高データの整備など最新の取組の他、「地理院地図」の中・小縮尺タイルのリニューアル、令和8年熊本地震における災害対応、自然災害伝承碑の取組等を紹介するパネル展示を行いました。

来場者からは、「電子国土基本図が現在も進化を続けていることに感銘を受けた」、「AI活用での効率化など今後のアップデートに期待している」、「XR技術とGISの活用する可能性について勉強になった」、「測量・建設分野以外でも、3次元技術を活用できる可能性を感じた」等の感想が寄せられました。

近畿地方測量部では、今後も地理空間情報の活用推進のため、産学官で連携を図りながら、継続的に取組を進めてまいります。



合同シンポジウム会場の様子（第三部）





地理空間情報関連の機器・システム等展示会場の様子

（近畿地方測量部）

第 77 回 日本学校農業クラブ全国大会（平板測量競技会）で国土地理院長賞を授与

第 77 回日本学校農業クラブ全国大会令和 8 年度南四国大会（主催：日本学校農業クラブ連盟、全国農業高等学校長協会ほか、後援：文部科学省、農林水産省、国土地理院、徳島県、高知県ほか）が徳島県徳島市、阿南市、吉野川市、高知県高知市、南国市の各会場で、10月 21 日、22 日の 2 日間にわたり開催されました。





平板測量競技会最優秀校（香川県立石田高等学校）に国土地理院長賞を授与

全国大会は、「農業高校の甲子園」とも呼ばれており、農業関係高校で学ぶ生徒たちが日頃の学習成果の発表や実習等で学んだ成果を発揮し、生徒達相互の交流を目的として毎年開催されています。

四国地方で開催される全国大会は、第57回平成18年度愛媛大会以来となります。本大会では、「柑橘香る阿波と土佐　渡り受け継ぐ渦の華　我らの農ク　踊り咲け」、「燃え上がれ！　我ら農ク魂藍色の四国の地へ」の二つをスローガンに掲げ、全国から選ばれし農業クラブの精鋭が「プロジェクト発表会」、「意見発表会」、「平板測量競技会」、「農業鑑定競技会」及び「クラブ員代表者会議」の5部門で競い合いました。

このうち平板測量競技会は、吉野川高等学校（吉野川市）で日本農業学校クラブの各都道府県連盟が選出した49チームにより、平板による境界線測量及び三斜法・三辺法による面積計算について競い合い、平板測量の技術・正確さ・スピードなどが審査され、優秀な成績を収めた学校には国土地理院長賞が授与されるものです。

22日には、アスティとくしま（徳島市）で大会式典が開催され、5部門の最優秀者及び最優秀校の表彰式が執り行われました。

平板測量競技会では、最も優秀な成績を収めた香川県立石田高等学校に河瀬和重（かわせかずしげ）国土地理院長（代理：宮本純一（みやもとじゅんいち）四国地方測量部長）から国土地理院長賞の賞状と楯を授与しました。





平板測量競技会の様子

なお、来年度は、第78回日本学校農業クラブ全国大会令和9年度びわこ近畿大会として開催される予定です。

（四国地方測量部）

令和8年秋の叙勲

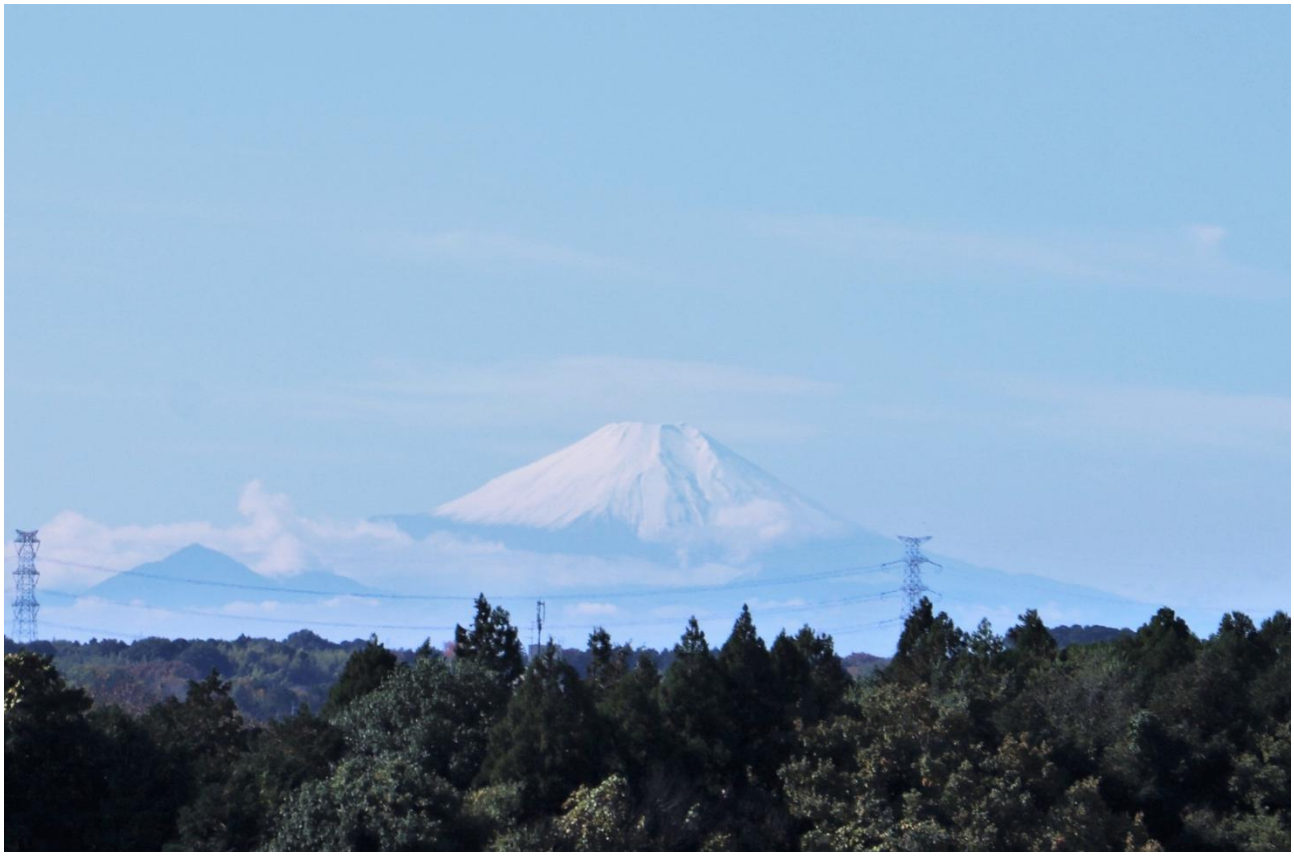
11月3日に、令和8年秋の叙勲受章者が発表されました。
国土交通省関係の叙勲受章者は292名、うち当院関係者では4名の方が受章されました。

（国土地理院在職時の建制順）

瑞宝小綬章	村上（むらかみ） 真幸（まさき） 氏（元 参事官）	平成27年10月退官
瑞宝中綬章	伊藤（いとう） 英隆（ひでたか） 氏（元 総務部長）	平成26年4月退官
瑞宝双光章	大塚（おおつか） 義則（よしのり） 氏（元 北海道地方測量部長）	平成28年4月退官
瑞宝双光章	畠山（はたけやま） 裕司（ゆうじ） 氏（元 近畿地方測量部長）	平成27年4月退官

（総務部）

国土地理院広報編集スタッフからの１枚　～　国土地理院の屋上から望む富士山　～



国土地理院（茨城県つくば市）から富士山までの直線距離は、地理院地図で計測すると約 148kmあります。

遠く離れているように思いますが、天気が良く空気が澄んでいる日は、写真のように冠雪した富士山を望むことができます。

（令和８年11月18日撮影）

○「自然災害伝承碑」 ウェブ地図「地理院地図」での公開数

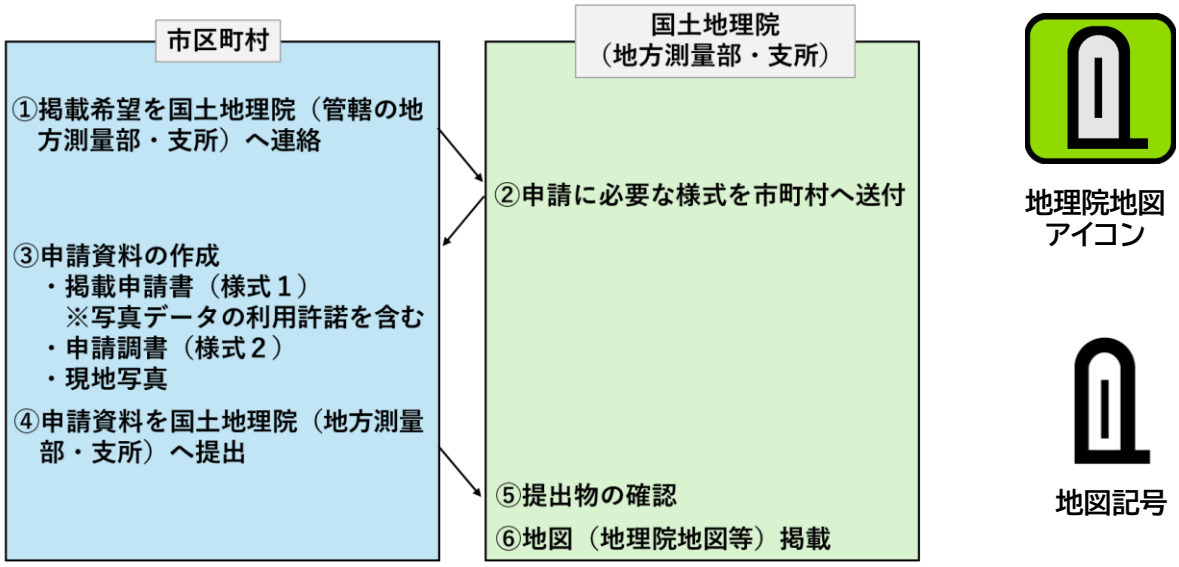
令和8年11月26日現在

47 都道府県	692 市区町村	2,516 基

今月で自然災害伝承碑が 2500 基を突破しました。詳細は p.6 をご覧ください。

[市区町村の担当者の皆様へ]自然災害伝承碑に関する当院への情報提供にご協力をお願いいたします。

自然災害伝承碑の申請の流れ



様式や手続きの詳細は以下のページをご覧ください。
https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi info.html

○10月の報道発表

発表日	件名	担当部署
2日	地理院地図で見る「地形」と「平成の災害」～国土交通省リレー講演会～	中国地方測量部
2日	広島市内の小学校教員に南極についての出前講座を実施します	中国地方測量部
8日	令和8年9月の地殻変動	測地観測センター 地理地殻活動研究センター
20日	「測量用航空機くにかぜ機内公開」「地図かるた」イベントを開催	総務部
30日	廿日市市の小学校で防災と地図の出前授業を実施	中国地方測量部

報道の内容は、国土地理院ホームページ>2026年 報道発表資料一覧
(https://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/press-2026.html)をご覧ください。

○12月の主な行事予定

月日	行事
11/3～12/13	古地図展示
12/25	冬休みイベント

国土地理院広報は、
国土地理院ホームページ＞広報誌＞国土地理院広報
(https://www.gsi.go.jp/WNEW/koohou/)に掲載しています。

発行 国土交通省国土地理院
Geospatial Information Authority of Japan
〒305-0811 茨城県つくば市北郷１番
TEL 029-864-6255
FAX 029-864-6441
連絡先：総務部広報広聴室
国土地理院ホームページ
https://www.gsi.go.jp/